

平成28年度学校評価報告書(自己評価)

<p>本年度の重点目標</p> <p>○〔重点目標1〕 笑顔、あいさつ、感謝のこころが溢れる学校にする。</p> <p>○〔重点目標2〕 一人一人の生徒が夢をもち、自己実現できるために、生徒の徳・知・体の力を高める。</p> <p>○〔重点目標3〕 率先垂範、教育的な温かさと厳しさをもって生徒の指導に当たり、チーム南中として全員で協力し、ともに学びと誇りを共感できる校風を醸成する。</p> <p>○〔重点目標4〕 小学校、保護者、地域や関係機関等との連携を深め、小中一貫教育を推進し、信頼、協力関係を構築する</p>
--

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	○挨拶の取組 ・教師が範を示し、生徒が自主的に挨拶をするように指導する。	○学校長や児童生徒支援加配教員を中心として、始業前に生徒通用門等で挨拶活動。始業前には学級担任は学級で挨拶活動と出席確認。副任は生徒通用門で遅刻生徒の指導を続け、遅刻が減り、生徒はよく挨拶をするようになっている。 ○ゼロのつく日には、「いじめゼロ」の取組として生徒会が朝挨拶運動を行った。 ○月初めには、地域の「朝の声掛け運動」に教員が毎回参加した。	A	○教職員の自己評価でも、100%の教師が生徒が自主的にあいさつをするように指導したと答えている。また、保護者の学校評価アンケートでも、生徒の挨拶に関する評価は高い。 今後とも地域と連携し、「あいさつ日本一」を目指したい。
	○清掃活動の取組 ・教師が範を示し、生徒が積極的に清掃活動を行うように指導する。	○全教師が担当の掃除区域に付き、率先して清掃指導を行う。また、始まりと終わりの挨拶を行う。 ○毎日早朝から教員が、校舎の周りのゴミ拾いや校内清掃に取り組んでいる。	B	○チャイムと同時に清掃活動を始めている。 ○この指導に関しては、90%以上の教師が「できている」と考えており、共通理解・共通実践ができていると思われる。今後も、生徒が自主的に取り組むように指導をしていきたい。 ○教員や生徒が実施している校舎内外の清掃活動を見ることで、校内にゴミを捨てたりする行動は無くなりつつある。
重点目標2	○授業力・教師力の向上による学力向上策 ・基礎学力の定着・向上に努め、わかる授業を心がけ、指導の工夫改善に努める。各教科領域で校内授業研修を実施する。	○指導の工夫改善(授業力、教師力向上の取組) ・学力向上プランを全職員で考えた。 ・学力向上委員会を学期に1回ペースで開催し、学力の向上のための対策を検討し実施した。 ・指導主事を要請し学力向上に特化した小中合同研修会を実施した。	B	○年度当初、学力向上委員会で、本年度の方向性を検討し、全職員で学年別教科別で学力向上プランを作成し、取り組んだ結果、各種試験において、成果としてあらわれ、基礎基本の定着、ボトムアップに繋がったと考えられる。 ○学力向上委員会では、学力の向上のための対策を検討・実施し、(各授業での「めあて」「まとめ」の徹底、全国学テの取組等)各種試験において、成果としてあらわれている。 ○小中合同研修会を開催し、通常学級の中でも特別な支援を必要とする生徒に対する対応方法等についても深め、学力向上のために、授業づくりでの配慮事項を確認し、実践につながった。 ○学力向上に関する小中合同研修会を開催し、で学力担当の指導主事2名に、ご講話いただき、職員の意識改革につながった。
	○スクールプランに沿った「心の教育」の実践 ・道徳や総合的な学習の時間、学校行事などを活用して、生徒の実態に応じた「心の教育」の実践に努める。仲間と協力して学校行事を作り上げることを通して、友達を思いやり、いじめなどのない楽しい学校生活を送れるようにする。	○総合的な学習の時間における体験学習等を通じて、班での協力、学級の中での協力、友達への思いやりの心などを育てることができた。 ○道徳の授業については、各学年の道徳担当が、年間計画に沿った自作資料・読み物教材・新聞の切り抜きなどの資料を用意し、話し合い活動にまで高めていけるような授業づくりを継続している。 ○学級活動では、対人スキルアップ学習を計画的実施した。	B	○総合的な学習の時間や体験活動を通して、生徒が目に見えて成長している。思いやりの心をもって友人に接することができ、何事も協力して行うことがでている。 ○道徳の授業が好きな生徒が多く、適切な教材を用いて指導を行うとともに、あらゆる場面で適切な指導を行うように努めている。 ○対人スキルアップ学習では本市の「北九州子どもつながりプログラム」を活用し、計画的に実施した。生徒間トラブルの防止に役立った。 ○来年度は、「アクティブラーニング」等の取組を深めて、自ら考え、行動する生徒を育てることが課題である。
	○スクールプランに沿った生徒に意欲、目的をもたせるための学力向上・体力向上の取組 ・学習への意欲を継続させるため、定期テストへの取組方法の改善とキャリア教育の視点を当てた進路指導の実施に努める。 ・学習環境を整え、生徒が落ち着いて学習に取り組めるように努める。 ・スポーツテストの結果を基にして、重点項目を決定し、体力向上に努める。	○定期考査への意識の向上に向けた手だて ・学習委員会の取組 学習委員会が中心になって、予想問題を作成して全校生徒に提供した。 ○キャリア教育の充実 ・将来の夢を現実化するため、長期、中期、短期の目標を設定するきっかけとして、特別講師から学ぶ(進路指導)、現役高校生から学ぶと題して講演会等を実施した。 ○スポーツテストを基にした、体力向上の取組 ・現状把握のため、年度当初に全生徒の体力テストを実施し、授業の組み立てを行った。	A	○予想問題から、問題を提供したことで、生徒の意欲を継続させるとともに基礎基本の定着にも役立った。来年度も継続し意識の向上に繋がりたい。 ○昨年度から引き続き、キャリア教育講演会を計画的に実施した。このことにより、将来の夢を具現化するため、長期、中期、短期の目標を設定するきっかけとなり、学習に対して意欲向上のために取り組んできた。 ○教職員により、校舎内の掲示物等の整理、教室内の棚の高さの調整などより良い学習環境の整備に努めた。 ○昨年度のスポーツテストの結果を踏まえ体力アッププランを作成し、授業の中で、その課題解決に努めた。このような取組により、今年度のスポーツテストの良い結果につながった。
○学習規律取組 学習規律(チャイム席・学習態度等)を守るように指導する。	○始業前に教室に入り、生徒に準備や環境整備等を声掛けする。 ○忘れ物をしないよう、指導を徹底する。 ○「小中9年間を見通したルール」を作成したので、各学級に掲示し生徒に周知した。	B	○生徒会活動によるチャイム席点検や始業前に教科担任が教室に入り、生徒に準備や環境整備を声掛けすることで、チャイムと同時に授業が始められている。 ○忘れ物に対しての指導を徹底することで、忘れ物が減少した。また、忘れたままで授業を受けることがないように配慮することで、授業への意欲も高まった。 ○小中9年間を見通したルールを掲示しているので、今後徹底していく。	
○規範意識向上の取組 生徒が服装や生活のルールを守るように指導する。	○生徒会活動で、生徒自ら服装や生活のルールを守る呼びかけと点検活動を実施し、全教師で生徒の活動の支援を行い、規範意識を高めている。	B	○この指導に関しては、90%以上の教師が「できている」と思うと考えており、ほぼ共通理解・共通実践ができていると思われる。今後も、生徒の自主的な取組とともに、積極的な生徒指導を進めていく必要がある。常に危機管理意識を強くもち、現在の学校の指導体制をより充実させていきたい。 ○ネットに関するモラル教育を講師を呼んで行ったり、事案が起こる都度学年で指導したりしたが、繰り返し事案が起こっているため、保護者を含めた個別の対応を徹底していく。	

重点目標 3	<p>○いじめ問題への取組 ・いじめをしない、させない、許さない指導の徹底。いじめは、どの学校でも、どの子どもにも起こりうるものであるとの認識に立ち、相談体制の確立及びいじめの早期解消に取り組む。</p>	<p>○教育相談を学期に1回、生徒と担任のつながりを深めるために実施。また、全生徒を対象としたいじめの実態に関するアンケート調査を実施した。 ○新入生にはSCによる全員面談を1学期に行い、いじめ等の早期発見にも役立てた。 ○把握したいじめは、速やかに校内いじめ問題対策委員会を開催し、情報の共有を行い、必要に応じて全教員で共有し、組織的な対応を図った。</p>	B	<p>○教育相談にて、将来の進路や悩みについて担任と生徒が話し合う機会を設けているが、その中でいじめがわかり、迅速に対処していじめを阻止できた。 ○1学期に行った新入生へのSCによる全員面談後の気になる生徒へのフォローアップ面談を行い、いじめ等の早期発見にも役立てた。 ○生徒指導等の研修として、いじめの問題にも触れて校内研修を実施した。その中で、生活態度や友人関係の気になる生徒を担任より全教員に報告し、共通認識した。具体的な事案につながるおそれのある兆候については、終礼等で全教員に報告する機会を設け、共通理解を図るとともに、早期解決に努めた。 ○把握したいじめは、加害者・被害者とも保護者に連絡し、解決を図り長期化を防いだ。その際、速やかに教育委員会に連絡した。 ○いじめの問題に関しては、関係機関等とのさらなる連携も必要である。</p>
	<p>○特別支援教育推進のための取組 ・校内研修において全職員で研修する。 ・小中合同で手だてを考え共通実践する。</p>	<p>○校内研修で、特別な支援が必要な生徒一人一人について共通理解し、各教科ごとの支援を具体的に考え実行した。 ○小中一貫の特別支援教育部会で、校区の「配慮を要する児童生徒への1日の流れに沿った指導・支援の統一プラン」を作成し全職員に配布した。</p>	A	<p>○一人一人について共通理解し、各教科ごとの支援が他の教員にも参考になり指導の改善につながった。 ○各教員が「配慮を要する児童生徒への1日の流れに沿った指導・支援の統一プラン」を活用したため、指導の改善につながった。</p>
	<p>○保護者や地域との信頼・協力関係の構築 ・各種情報発信を行い開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>○授業参観 ○キャリア教育講演会特別講師から学ぶ(進路指導)、現役高校生から学ぶと題して講演会等を実施した。 ○学校便りの発行、学校ホームページの更新を定期的に行うことにより、情報発信に努めた。</p>	B	<p>○授業参観やキャリア教育講演会を保護者や地域に公開したことで、授業の状況や生徒の状況、学校の取組が周知された。また、参加できない方々のために、学校便りや学校ホームページを活用することによって、より広く周知することができた。このように開かれた学校づくりに努めたことで、保護者や地域の方々との信頼関係を構築することができた。 ○講演会については、保護者や地域の方々への出席が少なかったため、周知方法を工夫していきたい。また、参加しやすい時期・時間帯等工夫していきたい。</p>
重点目標 4	<p>○小中一貫教育の推進 ・小中一貫教育モデル校として、4-3-2の学年区分による9年間を通じた連続性・系統性のある教育活動の実践を行う。</p>	<p>○推進委員会の実施 ・各校の校長、教頭、コーディネーターが、2週間に1回会議を開き、各種取組等の方向性を考えた。 ○専門部会の開催 ・学力向上／カリキュラム編成部会、人権・生徒指導部会、特別支援教育部会のいずれかに所属し、2か月に1回会議を行い、取組について話し合った。 ○小中合同研修会 ・2か月に1回専門部会から提案した各研修を行った。</p>	A	<p>○推進委員会では、専門部会や小中合同研修会の企画をはじめ、部会で決まったことの具現化に向けて方向性を見出した。 ○学力向上／カリキュラム編成部会では、9年間見通したカリキュラムの編成を行った。また、小学校への中学校教師の乗り入れ授業を計画的に実施した。小学生の児童や職員から好評であった。 ○人権・生徒指導部会では、小中一貫のルール作りや、9年間を見通した対人スキルアップ学習や、「新版いのち」を活用した授業の年間計画を作成し、実施したため、小中合同の授業研究にもつながった。 ○小中合同研修会では、「対人スキルアップ研修」「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎」「特別支援教育」「学力向上」等を行い、小中合同の「地域清掃」「花づくり」等により、校区の美化に貢献した。以上の取組から、校区の職員同士が、顔を合わせる機会が多くなったため、気軽に児童生徒の相談ができるようになってきている。来年度以降も、できる範囲で計画的に推進していきたい。</p>